

**製品名: コンタクチン 1 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab09240**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	113kDa

**抗原情報**

遺伝子名	CNTN1
別名	CNTN1; Contactin-1; Glycoprotein gp135; Neural cell surface protein F3
遺伝子 ID	1272.0
SwissProt ID	Q12860
免疫原	ヒトコンタクチン 1 の N 末端領域から得られた合成ペプチド。

**背景**

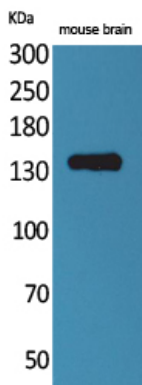
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、免疫グロブリンスーパーファミリーに属します。グリコシルホスファチジルイノシトール (GPI) アンカー型の神経膜タンパク質であり、細胞接着分子として機能します。発達中の神経系における軸索接続の形成に関

与している可能性があります。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする複数の選択的スプライシング転写バリエーションがみついています。[RefSeq 提供、2011 年 12 月]、疾患: CNTN1 遺伝子の欠陥は、コンプトン・ノース先天性ミオパチー [MIM:612540]の原因です。コンプトン・ノース先天性ミオパチーは、先天性発症の筋力低下の家族性致死性形態であり、常染色体劣性形式で遺伝し、筋筋鞘からの  $\beta$ 2-シントロフィンおよび  $\alpha$ -ジストロブレインの二次的喪失、中枢神経系障害、および胎児無動を特徴とする。機能:コンタクチンは、神経系の発達中に細胞表面相互作用を媒介する。髄鞘形成末梢神経における傍節軸索-グリア細胞接合部の形成、および CNTNAP1 との結合による軸索と髄鞘形成グリア細胞間のシグナル伝達に関与する。NOTCH1 のリガンドとして作用することにより、オリゴデンドロサイトの生成に関与する。NOTCH1 との結合により、放出されたノッチ細胞内ドメイン (NICD) を介して NOTCH1 の活性化が促進され、核に移行する。TNR との相互作用は、ニューロンの反発と神経突起の伸展阻害を引き起こす。類似性: 免疫グロブリンスーパーファミリーに属する。コンタクチンファミリー。類似性: 4つのフィブロネクチン III 型ドメインを含む。類似性: 6つの Ig 様 C2 型 (免疫グロブリン様) ドメインを含む。サブユニット: モノマー。シス型で CNTNAP1 と相互作用する。タンパク質チロシンホスファターゼ  $\zeta$  の炭酸脱水酵素様ドメインに結合する。NOTCH1 および TNR と相互作用する。組織特異性: 脳、神経芽細胞腫、網膜芽細胞腫の細胞株で強く発現する。肺、脾臓、腎臓、骨格筋では発現レベルが低い。

## 研究分野

細胞接着分子 (CAM)

## 画像データ



コンタクチン 1 ポリクローナル抗体を用いたマウス脳細胞のウェスタンブロット分析。二次抗体は 1:20000 に希釈された。